

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(在宅支援コア)

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ①在宅支援マニュアルの完成
- ②重介助の在宅復帰プラン/パス作成・完成

●構造 structure

【物的資源】

- ①福祉用具や住宅改修についての参考資料

【人的資源】

PT2名、OT1名

【組織的特徴】

- ①介護保険制度、住宅改修について情報収集し知識を深めた
- ②入所や訪問などで経験した他利用者の事例を共有

●過程 process

- ①前年度までの活動内容について共有、住宅改修について情報収集し、共有
- ②セラピストが重介助者の在宅復帰に向けて、入所前・入所時にどのような情報を把握しておくべきかを検討
→ 家人へのアンケート用紙を作成
重介助者を3ヶ月で在宅復帰させるためにはどの時期に何をしておく必要があるのかを検討
(入所日～1ヶ月、1ヶ月～2ヶ月、2ヶ月～3ヶ月に分けて他職種の動きも含めて検討)
→ 重介助の在宅復帰パスを作成
入所者でモデルケースを選定
→ 担当PT、OT、STと協同で多職種と連携を図り、介助指導や今後必要なサービスなどについての話し合いを進める。また家人にも現状を報告。介助指導の必要性を伝え、日程調整を進める
12月にコアカリで重介助の在宅復帰プラン/パスについて発表
→ グループディスカッションでの内容を参考に在宅復帰パスを修正

●結果 outcome

- ①在宅支援マニュアルは作成中
- ②モデルケースを在宅復帰につなげることができた
重介助の在宅復帰パス完成(全介助の利用者対象)

《次年度持ち越し課題》

- ①在宅支援マニュアルの完成
- ②重介助の在宅復帰パスについて多職種で共有(ケアマネ、相談員)